

新たな息吹 SINCE2007



さわの里だより



横浜市立さわの里小学校 学校だより

URL <https://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/sawanosato>E-mail y3sawano@edu.city.yokohama.jp**3月号**

本年度もほんとうにありがとうございました
～子どもたちの「力」を育みたい～

学校長 鈴木 和枝

春の風によって梅の香が漂ってくる今日この頃です。

先日、ある会にて幼稚園の先生のお話を伺う機会がありました。幼稚園や保育園での育ちの土台があってこそ、小学校生活を元気いっぱい楽しむことができるので、園の先生方のお話は「なるほど。」と改めて共感することがいっぱいです。

このときのお話は、今年度入園した子どもたちが、園庭で初めて砂遊びをしたときのエピソードでした。初めて幼稚園で砂遊びをした子どもたち。ところが、何の悪気もなく友達に向けて砂を投げたり、頭からかけたりしたというのです。目に砂が入った子もいて、大変なことになったそうです。「今までこんなことはなかったのに……。」と考えたときに、ハッと気付いたのが「新型コロナウイルス」の存在だったということでした。コロナ禍にあって、子どもたちは外遊びもままならず、乳幼児期に多くの子どもが体験する砂での遊びや友達との移植ごてや小さいジョウロの貸し借りの経験もなく、「砂」というものがどういうものか、どう扱えばよいのかがわからない。そういう子どもたちが今目の前にいるのだと気付いたというお話でした。「砂遊び」という一つの遊びのエピソードですが、内包されているものはとても深く大きなものを感じます。体験が豊かな子どもは、自己肯定感が高いということが研究の結果でわかっているとのことですが、まさに子どもは自分の頭で考えて、自分の体を使ってやってみて、心で感じて、初めてその後の自分がよりよく生きていく力につながる学びを得ていくのだと思います。

さて、さわの里小学校の子どもたちの令和3年度の残りもあとわずかとなりました。ある学級では、校舎内の特別教室など、その場所がどういう目的で使用される場所かが一目でわかるようなシンプルな図記号（ピクトグラム）を定め、それを掲示していこうという取組にチャレンジしています。オリンピックやパラリンピックなどで美しいそれらを目にすることがあっても、そうそう簡単にはできないことに、自分で取り組んでみて、自分事となって、自分とピクトグラムがつながって、初めて気付きます。

また、今1年生は、一人一球ずつチューリップの球根のお世話をしています。水やりをしながら「色が変わってきた。ピンクと緑が混ざっている！」「もっと陽に当てた方がいいよ。」などと気付いたことを口にしています。毎朝水やりをするのは、アサガオを育てたときの経験がチューリップへとつながっているからです。もしかしたら、他の花を育てた経験がある子もいるのかもしれない。

コロナ禍で行事や活動が中止や縮小となり、子どもたちへの今後の影響が懸念されているところです。それでも、子どもたち自身の本気の思いや願いがあれば、子どもたちは自己肯定感をもって様々なことを乗り越えていける。乗り越える力につながる「体験」や「経験」を大切にしたいと、改めて思う年度末です。

最後になりましたが、本年度も、子どもたち、教職員、そして本校をお支えいただき、本当にありがとうございました。心より深く御礼申し上げます。締めくくりに日まで、教職員一同がんばります。



見て見て！
登校途中に見つけたきれいな霜柱。今年の冬は寒かった！